

# テーマE：地方展開を見据えた、放課後の時間を自らデザインするレジデンシャル・カレッジの進化 (株式会社エイチラボ)

## 実証背景と内容

### 背景

- ・高校生はリアルな社会課題、職業にふれる機会が限られており、ロールモデルと出会えず、特に地方においてその状況が顕著
- ・首都圏の学生等、限られたところのみでしかこのサードプレイスとしてのレジデンシャル・カレッジにアクセスできない現状



### 取組内容

- ①サードプレイスの創出と、その効果測定
  - ・対象者：地方在住の高校生
  - ・育成する人材像：生涯自ら学び続け、主体的に将来を切り拓くリーダー
  - ・プログラム内容：レジデンシャルカレッジ滞在
  - ・期間：2023年1月の2週間
- ②自走に向けたプラン具体化と示唆出し
  - ・当初の自走プラン：企業等スポンサー、支援者との連携
  - ・自走に向けた実施事項：企業や自治体、財団との相談、保護者・教員ヒアリング
- ③普及に向けたプラン具体化と示唆出し
  - ・当初の普及プラン：実際に地方に設立するにあたる、中長期的なパートナー連携
  - ・普及に向けた実施事項：企業や自治体、財団との相談、保護者・教員ヒアリング

## 実証成果

### ①サードプレイスの創出と、その効果測定

- ・ SHIMOKITA COLLEGE（レジデンシャル・カレッジ）にて、地方在住高校生を2週間受け入れ、2週間プログラムを開発し提供し高い満足度。
  - ・ 満足度評価は4.9/5
  - ・ 中でも、バディ制度という担当の先輩がつく制度が高評価。
- ・ 多くのロールモデルとなる先輩と交流することで、参加者は「未知のわからないことに意欲的に取り組む」点と「学びの抽象化・応用力」「判断力」については明確な向上が見られた。（事前・事後アンケート調査による）

### ②自走に向けたプラン具体化と示唆出し

- ・ モニターステイには協定提携済の高知県梶原町から生徒の参加があった。今後は他地方自治体との連携を（予算化を含めて）進めていきたい。
- ・ 保護者・教員ヒアリングより、実際に有償で実施する場合の費用感やボトルネックも出てきた。
  - ・ 許容される費用感はばらつきがあるが、奨学金等の支援は必要
  - ・ モニターステイ自体は学校の許可が必要となる（公欠扱い等）ため、長期休みがよい。

### ③普及に向けたプラン具体化と示唆出し

- ・ 企業や財団との一部協議は開始
- ・ 中長期的に地方都市にレジデンシャル・カレッジをつくるにあたって、高校生が居住する場合には学校の理解が重要であり、校則との関係や学校との連携が重要。

# 創出・改善したサードプレイス 背景・目的・内容①

## プログラム概要

場所	SHIMOKITA COLLEGE
期間	2週間 (2023.1.14～29)
人数	8名
費用	無料（家賃・光熱費等） ・往復交通費も全額支給 ・上記以外の食費/消耗品費等自己負担
部屋	2段ベッド部屋の相部屋、あるいは個室を使用。 ルームメイトとの暮らしも学びになると考えて感染状況を見ながら実施。
募集期間	2022/11/14～11/27
備考	未成年を対象とするため、保護者による了承を必須、誓約書等を準備した

## 募集要項の概要

### 対象

- 2週間参加できる地域在住の高校生
  - 「地域」とは、原則、一都三県（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）を除いた日本国内とします。一部例外あり（島しょ地域等）
  - 「在住」とは、2022年11月現在の居住している場所とした。

### 選考課題

- 【エッセイ課題①】  
あなたがHLABカレッジ・プログラムに参加する理由を教えてください。自らの学びのために、ここでどんな経験をしたのかに触れながらお答えください。
- 【エッセイ課題②】  
レジデンシャル・カレッジでは、ひとりひとりが文化や習慣をつくりあげていく担い手となります。HLABカレッジ・プログラムの学びを豊かにするために、あなたは何をもち寄りますか？

### 選考方法

- 【選考】  
書類選考にて原則決定する。また、事前オリエンテーション等により、オンラインでの事前面談、説明等を通じて認識を揃えた。

## 参加者

- 全8名が参加した
  - 女性5名、男性3名
  - 高校の属性
    - 県立高校（高知県、徳島県、奈良県、新潟県、宮城県）
    - 私立高校（北海道）
    - 通信制高校
- 学年
  - 高1：1名
  - 高2：4名
  - 高3：3名
- 全応募者の滞在に期待するもの（複数回答可）
  - 自身の考えを自由に発言したり活動ができる場・コミュニティ（24名）
  - ロールモデルとの出会い（22名）
  - 高校生との交流（21名）
  - 自身の夢や目標の明確化（20名）
  - 大学生との交流（17名）
  - 社会人との交流（15名）
  - 進路（選択）に関する情報（12名）
  - 課外活動に関する情報（10名）
  - 自己効力感（9名）
  - コミュニケーション力（9名）

# 目指す人物像と本事業開催地の概要（SHIMOKITA COLLEGE）

## 目指す人物像

以下の力を身に着けた生涯学び続けるリーダーの育成を目指している場

- 1 多様性の中での共創力：**  
身近な違いを尊重し、自身の学びと成長に変え、チームの力に昇華することができるリーダーとなる。
- 2 楽しみ学び続ける姿勢：**  
分野を跨いだ知的好奇心と情熱を持ち、一生学び続けるリーダーとなる。
- 3 パブリック・マインド/公共の精神：**  
自分の領分を越えた関心を持ち、世のため人のために行動し続ける、変革的リーダーとなる。

東京・下北沢駅徒歩3分の立地に、全102室を要する学生寮

- ・ 個室、2人部屋、4人部屋等を組みあわせ全102室
- ・ 運営：株式会社エイチラボ、UDS株式会社、小田急電鉄株式会社

**選考された高校生・大学生・社会人が共に住む、世界でも類を見ない、多世代でのレジデンシャル・カレッジ**

- ・ 2022年7月時点では約80名の高校生～若手社会人までが居住
  - ・ 約10名：高校生
  - ・ 約50名：大学生
  - ・ 約20名：若手社会人
- ・ 入居にはエッセイ、面接を通じた選考をクリアする必要がある
- ・ 単一世代に終始した寮は存在しているが、多世代は珍しい。



**共有のオープンスペースを多く取り、カレッジに住む学生のみならず、ゲストも含めて大きなコミュニティとして運営**

- ・ 日々、多くのゲストが訪問し、ざっくばらんな対話ができる場づくり
- ・ 居住していないながらも、よくこの場にいるカレッジ生の友達、先輩、後輩、という人々も出入りし、学びのコミュニティの一員となっている。

**世代を超えたグループでの振り返りの時間やコミュニティでの活動を通じて、心理的安全性の高い空間でのチャレンジできる環境を提供**

- ・ 定期的な振り返りの時間を設け、自身のカレッジ生活や人生について振り返り、応援し合う関係性を醸成する
- ・ カレッジ生だけで起業やクラウドファンディングに挑戦する例も出てきている。

# 創出・改善したサードプレイス 背景・目的・内容②：プログラム 2週間の全体像

2週間のうち、1週目をインプットと位置づけインタビュー等を実施、2週目にWSと発表を実施しアウトプットする。

PGM前



事前アンケート  
とインタビュー

事前オリエンテー  
ション  
(オンライン)

- 12月中に事前インタビュー、オリエンテーションを実施予定

Week1  
インプット週間



インタビューワークを通じて、  
自他を知るインプット

- 他住民へのインタビューと逆インタビューを通じて、多様なキャリアや進路を知り、自身の興味について内省
  - なおインタビューワークをする、という理由を与えることで対話の機会を増やしている
- バディ（専属の先輩）やハウス制度等により生活もサポート
  - 1人1人に対して大学生・社会人の「バディ」と呼ばれる先輩をアサイン。また、高校生・大学生・社会人が同じグループで活動する「ハウス」にも所属。

Week2  
アウトプット週間



探究ワークショップと発表を通じて、  
自身の考えをアウトプット

- 今回の未来の教室のスコップである「地域におけるサードプレイス」をテーマに、地方における高校生を取り巻く現状とサードプレイスについてアイデア創出した
  - 関係者へのインタビューやブレインストーミング等サポート
  - HLAB側でファシリテーションをし、ワークショップを実施
- 最終発表は滞在期間の学びと当該WSのアウトプットを発表した

PGM後



事後アンケート



Slack等の活用で  
オンライン  
コミュニティ化

## モニターステイ2週間 詳細（入居～）

### 1/14（土）：入居日・入居オリエンテーション・Mini Welcome Dinner

1/15（日）：カレッジ新年会/成人式

1/16（月）：インタビューワークWeek開始

1/18（水）：探究ワークショップ①地方におけるサードプレイス

1/22（日）：探究ワークショップ②地方におけるサードプレイス

1/25（水）：オフィスアワー

1/27（金）：未来の教室最終発表会

1/29（日）：退去日



### 初日の様子

それぞれの地域から8名の参加者が集まりました。都内の電車等の移動に苦戦しつつも、全員がカレッジに揃い、緊張しつつもほっとしている様子でした。

夜にはオリエンテーションを実施。お互いに自己紹介をして、カレッジでの生活について説明を受けました。2人部屋に住むメンバー同士はお互いの生活のルールを決め、共同生活の同意書を作成しました。

その後バディ（大学生サポーター）も加わり、Welcome Dinnerとしてピザパーティーを楽しみました。バディと一緒に建物内を回り、他のカレッジ生とも仲良く話す様子が見られました。

### ☆バディの紹介

1人のモニター生に1人の大学生がバディとして付きました。居住中の悩みを聞いたり、やりたいことのサポート等をしたり、充実した生活となるよう様子を見守ってくれる役割です。

バディの在り学校：法政大学・明治大学・東京理科大学・聖心女子大学・青山学院大学・早稲田大学  
国際基督教大学・慶応義塾大学  
男女比は4：4

## モニターステイ2週間 詳細（探究ワークショップ）

1/14（土）：入居日・入居オリエンテーション・Mini Welcome Dinner  
1/15（日）：カレッジ新年会/成人式  
1/16（月）：インタビューワークWeek開始  
**1/18（水）：探究ワークショップ①地方におけるサードプレイス**  
**1/22（日）：探究ワークショップ②地方におけるサードプレイス**  
1/25（水）：オフィスアワー  
1/27（金）：未来の教室最終発表会  
1/29（日）：退去日



### ワークショップの開催

18日（水）の夜には、今回の経産省の事業テーマである「地方におけるサードプレイス」について考えるワークショップを実施いたしました。地方在住の高校生の目線から考える、教育の課題や都市圏との差といったものを抽出する活動に取り組みました。それぞれがいろいろな意見を出して、考えや学びを深め、地方高校生だからこそ感じる「差」を共有し、向き合う時間となりました。

### 普段の様子①

香港出身留学生のバディHさんが、香港料理をつくるランチ会を計画してくれました。土日は基本的に寮の食事が出ないため、それぞれで食事を取ります。モニターステイ参加者は下北沢の街に繰り出し、材料をスーパーで買い、Hさんが丁寧に作り方を教えながらみんなで楽しく料理をしていました。香港フレンチトーストや、トマト牛肉麺など、なかなか本場の作り方を学ぶことがない貴重な異文化体験になりました。そしてHさんが日本の方言に興味があるようで、それぞれ地方の高校生たちは自分の地域の方言を紹介して、盛り上がっていました。



## モニターステイ2週間 詳細（2週目、最終報告会）

1/14（土）：入居日・入居オリエンテーション・Mini Welcome Dinner  
1/15（日）：カレッジ新年会/成人式  
1/16（月）：インタビューワークWeek開始  
1/18（水）：探究ワークショップ①地方におけるサードプレイス  
1/22（日）：探究ワークショップ②地方におけるサードプレイス  
1/25（水）：オフィスアワー  
**1/27（金）：未来の教室最終発表会**  
1/29（日）：退去日



### 普段の様子②

また、バディが案内する「東京修学旅行」も週末に実施しました。バディの大学生達が今回のために企画してくれました。東京都内の観光地の他、居住者の社会人の職場見学、都内の有名な大学キャンパスへ足を運んだりなど、地方の高校生たちにとっては新しい世界を楽しむ時間になりました。

### 最終報告会の様子

最終報告会では、前半に地方と都会のサードプレイスに関する課題とその向く方向性について各グループが発表をしました。その後各参加者8名がそれぞれ2週間での経験や学び、伝えたいことを言葉にするスピーチが行われました。バディからの証書授与、コメントを経てモニターステイプログラムが終了しました。

現場にはカレッジ生だけでなく、文科省・経産省の方々も集まりました。オンライン配信先でも、参加者の親御さんやカレッジ生で部屋からオンライン参加する子など、多くの方が配信を視聴しておりました。今回の最終報告会の様子を親御さんをはじめ、参加者の先生方にも共有をし、お子様・生徒さんの様子や成長が見れたことに感謝のコメントを複数いただきました。



# モニターステイ アンケート結果 満足度調査（主要項目）

項目	満足度	考察
1 モニターステイ 満足度	4.9 (5 : とてもよかった)	1人を除いて最高評価だった。4をつけた1名については、カレッジで交流した人が限定的だったことをコメントに挙げてくれている。滞在フロアや共用部によって交流できる人が限定されるという現実はある、短期間だからこそもう少し強制的に多くの交流を設ける場があってもよかったかもしれない。
2 期間 (2週間が長いか)	2.9 (1 : とても短い~ 5 : とても長い)	2週間という期間は、ある意味で全力疾走可能な期間であり、非日常が保てる限界の期間なのではないか。高校生からも2週間だからこそ貪欲にいけた、というコメントもあった。1ヶ月だと中だるみしそうというコメントも。通常の高校生は3ヶ月滞在であり、メリハリをもって運営してはいるが、確かに非日常感は失われている。
3 バディ制度	4.9 (5 : とてもよかった)	高校生滞在時は例外なく全員にバディをつけており、これが有効に機能した。最低2回のチェックインに加えて、食事を一緒にとる等積極的な働きかけを依頼した。今後もこれは継続して行いたい。大学生には寮内アルバイト的な位置づけにもなっていることもプラス。
4 インタビューワーク	3.5 (5 : とてもよかった)	やや高校生の主体性に任せすぎたところと、これまでインタビューワークを多発していることから他住人がインタビューワーク疲れしている、という現実があった。寮内に限定せず、外部ゲストを呼んでのインタビューワークにする等、今後の工夫の余地がある。満足度低下の理由は、社会人組とアポとりが難しい、ということだった。(平日NGが多いため)
5 ワークショップ 〔 地方における サードプレイス 〕	4.3 (5 : とてもよかった)	概ね高評価ではあったが、低評価のコメントには「地方における問題」や「サードプレイス」の範囲が大きすぎて、問題を捉えて解決策を考えることがとても難しかったというものがあった。運営側としては彼らの視点や意見を吸い上げることができたため非常によかったが、問いが広すぎたことにより、やや不完全燃焼感があった可能性がある。

# 実証事業事前・事後における生徒の自己評価の変化<sup>1)</sup>

## 独自の評価指標における変化

事前・事後差分調査	平均上昇差分 (5段階評価)
1 自分のことが好きだ	0.125
2 自分自身に満足している	0.375
3 自分のことを役に立たないと強く感じる	0.125
4 将来、やりたいことがある/将来の夢を持っている	0.5
5 将来について前向きな気持ちを持っている	0.25
6 うまくいかかわからないことにも意欲的に取り組む	0.875
7 自分は責任がある社会の一員だと思う。	0.5
8 自分で国や社会を変えられると思う	0.5
9 日本に解決したい社会課題がある	-0.125
10 社会課題について、友人や家族などと積極的に議論している	-0.125
11 自分は周囲の環境に恵まれていると思いますか。	-0.5

(N=8)

「未知のわからないことに意欲的に取り組む」項目については明確な上昇が見られた。カレッジで、他に挑戦する先輩や友人ができたことにより、自身の意欲も向上したと考察される。加えて、将来やりたいことが明確になったり前向きになったりしているところから、一定の効果があつたと見られる、

一方、周囲の環境についてはマイナス評価になっており、地方に住む高校生たちの自身の日常の環境について、改めてカレッジでの生活と比較してしまい、ネガティブに見えてしまっているのではないかと。この点については、参加者が地方に戻ったあと、オンラインでつながることはできるが、なんらかの形でフォローアップができるとベストと考えている。ここはHLABだけでなく、他の地域で活動する団体や自治体、学校との協力が不可欠と考えている。

## 未来の教室コモンルーブリックに基づく変化

未来の教室コモンルーブリック 事前事後差分調査	平均上昇差分 (4段階評価)
1 自己肯定感	-0.25
2 学び方を学ぶ姿勢	0.5
3 学びの抽象化・応用力	1.125
4 他者との協働	0.25
5 課題発見力	0.5
6 思考力	0.125
7 判断力	0.75
8 表現力	0.5
9 想像力	0.25
10 知識	-0.125
11 技能	0.5
12 異なる知識・技能の結合	0

(N=8)

未来の教室コモンルーブリックに基づき、4段階自己評価の事前事後の差分を集計した。明確に、**学びの抽象化・応用力については向上**している。「学んだこと、得たことを、その他の関連していない場や活動にも生かすことができる。」という最高段階の自己評価が目立ったが、おそらくカレッジでの学びを地元に戻ってから活かそう、という意欲と紐づいていると考えられる。「**判断力**」についても3~4をつけており、「目的を設定し、それを達成するための効果的で実現可能な手段を選ぶことができる。」と自身で回答している。おそらく同様のことをやっている先輩たちと出会えたからではないだろうか。

自己肯定感のマイナスについては、滞在前から母集団の自己肯定感が非常に高かった、という前提がある。(全員、3か4を回答) カレッジ滞在を経て、様々な先輩や同級生を知ったことで「鼻を折られた」というコメントもあつたため、それに関連した結果を考えられる。

1) Google Formによるアンケートを参加者全員(8名)がプログラム前、プログラム後に回答したものを集計。N数が少ないため、簡易に平均値の変化のみ比較。

# 創出・改善したサードプレイスが関係者にもたらす効果

## ステークホルダー

## もたらす効果・利点（今回の実証において）

ア

### 学習者

（地方から参画した高校生）

未知のことに対して取り組むことに意欲的になったり、目的を設定し、それを達成するための効果的で実現可能な手段を選ぶことができたりするようになった。

- 親元や地域を離れてあらゆる時間を自らデザインする必要があった
- これまで出会ったことのない身近な同級生や先輩と出会い、触発された

**応援・支援しあえるサードプレイス、コミュニティができた**

- 寝食を共にした密な対話が伴う経験により、お互いがやりたいことや興味のあることを応援しあえる関係性を構築。終了後もオンラインで継続して繋がる。

イ

### 保護者

**子どもが新しい出会いが安心して得られる場だった**

- 弊社の過去の実績や経産省の実証事業であることから、東京に送り出すことに対しても安心して任せていただいた

**地方の家庭だけでサポートしにくい、人々との出会いや機会を補完する場であった**

- 進路の選択肢もある程度固定化されがちになる地域から、外に出ていくためのひとつのきっかけになりうる。（たとえ短期滞在であっても）

ウ

### 教員・学校

**学校単独では提供が難しい、多様な大人との出会いを補完する場だった**

- 学校外で活躍する大人との出会いを補完するサードプレイス
- 教員負担の観点からも、この部分を学校だけに依存するのは難しい

**経産省のプロジェクトだったこともあり、学校としても安心してオススメができるプログラムだった**

- 国の事業であることで、公欠扱いや一部学校の欠席が認められた

# 高校生インタビューサマリー

## インタビューから見た課題、示唆・ニーズ

### 示唆・ニーズ

### 実際に出たコメント

高校卒業後の  
進路について  
影響を受ける存在の  
層に出会えない

- 大学が物理的に近くにないため、大学生に出会わない
- 少し年上と話せる関係がほしい
- 出会う人によって将来の生き方に差が出ると思っている
- 進路の相談は親と先生だけという実態がある

課外活動の場や  
選べる活動  
が少ない

- そこに行けば情報が入るという場、プラットフォームが欲しい
- 学校・塾も選択肢が少ない
- 習い事の種類も多くない
  - ダンス教室に通いたかったがなかった
- 課外活動への移動（交通）手段が不便

地方における  
教育格差を  
自覚する機会が  
そもそも少ない

- そもそも教育格差について考えたことがない
  - この意見が一番多かった
- 今の環境に不満はない、という認識が大多数
  - 家と学校で十分居心地がいい状況
- 上記に伴い、そもそも自覚する機会がなく、場合によっては押しつけになってしまう可能性も

## プログラム・サードプレイスへの示唆・反映

### 地方の高校生にとって、現地では関わりづらい人材と関われる場

- 地方では身近に出会えない人と関わる機会創出
- 例) 年上のお兄さん・お姉さんの存在
  - 自分の将来や身近な事をを相談できる関係
  - いろんな将来の姿に出会う
- いろんな人からの情報を得て、選択の幅を広げる

### サードプレイスでの自由な自己表現の場の担保

- こんなことしたい！あんなことに挑戦したい！等、学校・家以外での課外活動ができる場や提供できる人材の担保
- 場がないからできないという理由で諦めてしまう可能性を減らすということ

### 自分の「立ち位置」を客観的に考えることができる場

- 自分の取り巻く環境（人・教育・生活）等が、どのようなものがあるかを知る機会を設ける
- のちに、知らなかったという情報格差により、何かしらの選択に後悔をしないよう、事前に情報を得ることもプラスだと考えている
- 知り得た課題やより良い情報から、どの「立ち位置」にいたい  
か取捨選択のできる機会を提供する

# 教員インタビューサマリー

## インタビューから見た課題、示唆・ニーズ

### 示唆・ニーズ

### 実際に出たコメント

#### 情報の取捨選択と提供の仕方が難しい

- 学校では生徒へ平等に情報を提供することしかできない（特定の企業や団体の情報だけ、とかそればかり紹介ができない）
- 生徒向けの情報はたくさん来るが、どれが良いものなのか取捨選択が難しい
- 学校によって選ぶ情報に差も出うる

#### 子どもたちのサードプレイスのニーズは把握しているが、対応に限界

- 学校と家以外での居場所を必要としている生徒がいることは、生徒と接していても感じる
- 進学校にとっては勉強以外で輝ける場や持ち物を得てほしい生徒もいる。それが学外にあるとよい。
- 長期休みなど、外での機会を増やしてほしいと願っている。（学校だけで対応ができないので）

#### 課外活動と学校のバランスやリスクが懸念

- 多くの人と関わるということは生徒にとってトラブルの元にもなるため、リスクを懸念する
- あくまで学校での生活が主であってほしいと考える。そのため、課外活動と学校生活・学業とのバランスは懸念
- 今回は経産省の実証事業のため、公欠としやすかったが、そうでなければなかなか難しい

## プログラム・サードプレイスへの示唆・反映

### 情報を生徒自身が取捨選択できる場

- 先生が選ぶ→生徒が知るではなく、ダイレクトに生徒が自分で情報を得ることができる場やプラットフォームが必要ではないか
- どれをどんなふうに分けたいかを多様な人の意見から選ぶことができるサポートもあるとよい

### 自己有用感・肯定感に繋がる場

- 学校という小さなコミュニティだけでなく、自分の居場所を感じることができる場
- 学力等の相対評価ではなく、人と比べられることなく生徒自身が自分をとらえる事のできる場

### サードプレイス×学校×家庭の連携の重要性

- 対象生徒の活動について、サードプレイスが責任を持って認識し、家庭や学校に共有する必要がある
- 学校との連携により、必要であれば公式に薦めてもらったり、公欠を認めてもらったり等、連携は非常に重要
- 学校や家庭に居心地を感じない子であっても、彼らの第1・2環境を否定したりおろそかになっていってしまうようなサードプレイスとならないように設計する必要がある

# 保護者インタビューサマリー

## インタビューから見た課題、示唆・ニーズ

### 示唆・ニーズ

### 実際に出たコメント

課外活動の場や  
選べる活動  
が少ない  
(高校生と同意見)

- 習い事・課外活動の種類が少ない
- アンテナが立つ親も少ないので、保護者間でもなかなか情報が入ってこない現実がある
- 課外活動への送迎が大変なので、気軽に参加できない

子どもが多様な人と  
関わる機会の少なさに  
懸念がある

- 地方という理由だけでなく、コロナも相まって、学校以外の人と出会う、話す、関わる機会はさらに減ってしまっているように見える
- いろんな生き方について親や先生以外で子どもに示す事ができる大人が身近にいない

継続的な  
サードプレイス  
の重要性

- モニターステイから帰ってきた子どもが、普段の地方の生活（日常）に戻された感じがあり、より格差を感じているような気がする
- モニターステイのような場や経験が継続的に関わることでできるものであってほしい

## プログラム・サードプレイスへの示唆・反映

### 地方の高校生にとって、現地では関わりづらい人材と関われる場

- 地方では身近に出会えない人と関わる機会創出
- 例) 年上のお兄さん・お姉さんの存在
  - 自分の将来や身近な事を相談できる関係
  - いろんな将来の姿に出会う
- 親だけではなく、いろんな子の生き方・先輩の人生にであってほしい

### 保護者視点で身につけてほしいのは社会的なコミュニケーションスキルや、自分で選択をしていく力

- ワークショップ等のプログラムでも上記能力に注力するが、まずは対話による自己分析や、インタビューワークは有効と考える

### 単発的なもので終わらないサードプレイスの重要性

- 物理的にどこかの「場所」に行かないと得れない物ではなく、SNS等を通して人や情報と繋がってられるサードプレイスである必要がある
- 子どもが必要としたときにいつでも戻れる場であれるよう卒業生コミュニティを重視すべき

# 創出・改善したサードプレイスの自走・普及に向けたプランや、示唆

## 自走に向けたプラン・示唆

すぐに地方にレジデンシャル・カレッジをつくれないうちは、地方出身、在住者向けの奨学金等の価格下げ/無料化施策を活用し、長期休暇等にプログラムを実装していく

- 原資は、企業や地方自治体、財団等とのパートナーシップによる協賛で一時的に担保
  - 実証事業期間中、数社にヒアリング
- 今回の実証事業では、弊社が既に包括連携（未来の教育創造に向けた連携協定）を結ぶ高知県梶原町からも参加者がいたことから、今後類似の自治体連携、ひいては予算化も含めた検討を他自治体とも進めたい

地元を離れて宿泊を長期伴う、ということから、所属高校との連携、理解は必須

- 通信制高校とは特に相性がよく、連携可能性は今後も模索したい一方、一般高校では、通常の学期期間中に行う場合には授業を休まざるを得ない
- そのため、長期休みでの実施が原則ベスト

## 普及プラン・示唆

最終的には都市圏以外にレジデンシャル・カレッジをつくることである。

地方の地価などの関係から、その際にはパートナー企業が確実に必要。

- 教育的付加価値を載せることで事業性を担保するため、元の不動産価格が低い地域では、付加価値の価格分が相対的に大きくなりがち。そのため、物件や土地を既に保有していて、リノベなどでコストを下げると同時に、地域への貢献を重視した理解有るパートナーが必須

特に、地場の企業や地方自治体で、土地や建物を保有していたり、留学支援をしている地方のインフラ系やメディア系の企業は興味をもってくれる

- 地元の若者支援の一環で、既に留学支援をしている地場企業は、こういった取り組みに前向き
- 財団なども、機会均等の観点から概ね良い反応
- 一方、レジデンシャル・カレッジの価値は理解する一方で、留学のようにわかりやすく外国にいく、言語を学ぶ、というところがないため、難しさもある

# Appendix

# 仮説構築：地方の高校生を取り巻く課題の仮説

- ヒアリング本格化前に、地方の高校生を取り巻く課題について、ブレスト。あるべきサードプレイスの仮説を構築していく。  
(以下はブレストの結果の一部)

## 地方高校生の現象



## 地方高校生の課題



今後は、ターゲットを取り巻く課題の抽出と整理

### 1. 起きている「現象」の整理

- (例) 地方在住の高校生は首都圏の高校生に比べて大学進学率が低い
- (例) 物理的に、サードプレイスの数が少なかったり、学外の機会が少なかったりするため、学内での交流に留まる

### 2. 上記「現象」を起こす「課題」(=理由)の分析

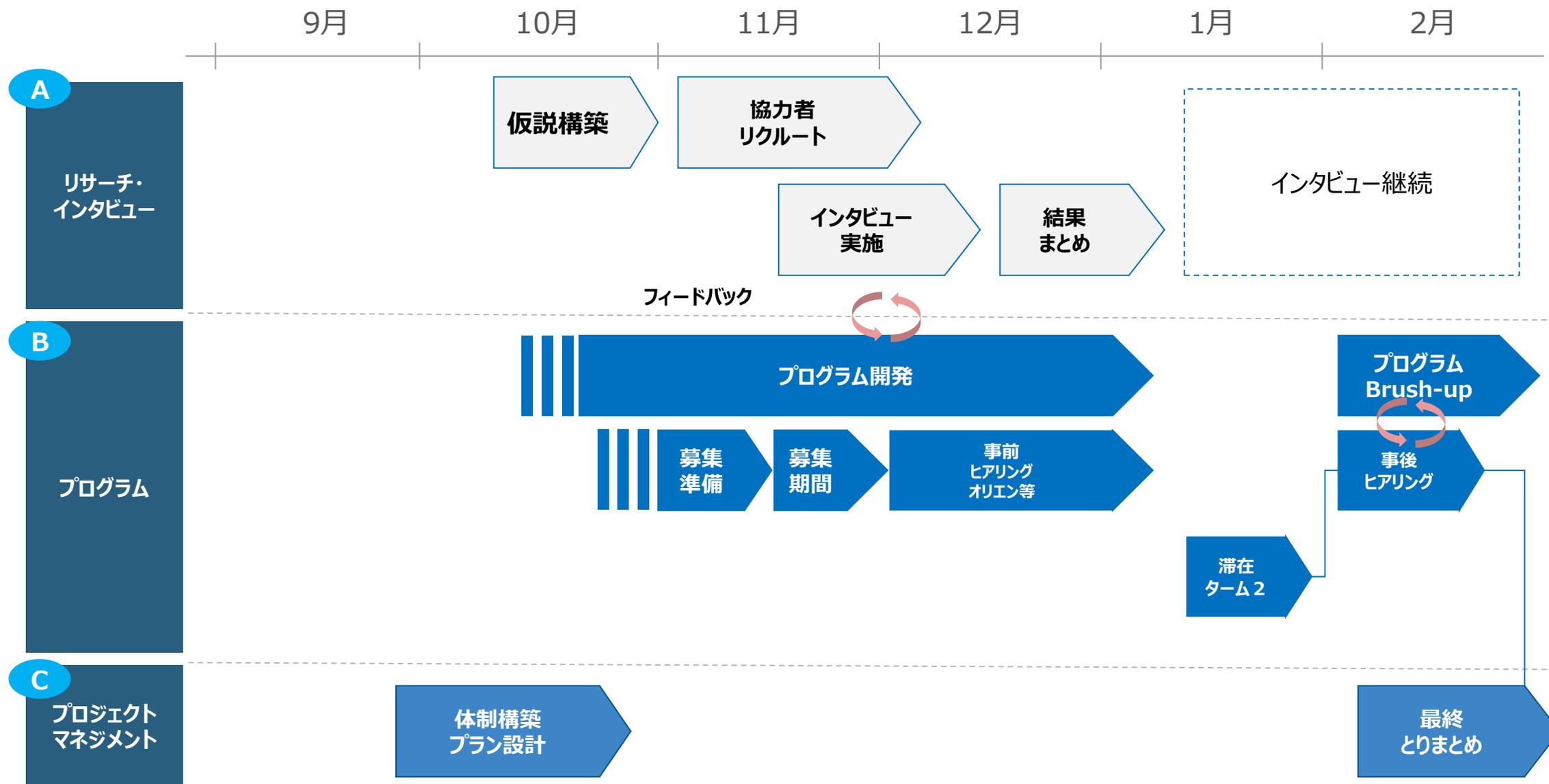
- ロールモデルが限定的で多様な選択肢を知り得ない
- 固まった教員や学校の価値観(都市圏は大卒を前提とする規範が内在化している、等)
- リソース(お金)不足
- TOEFLとかも受けられるところがむちゃくちゃ限られている等
- 学問上での「近隣効果」等

→その中でも、サードプレイスたるレジデンシャル・カレッジが解決できる(と考えられる)課題の抽出

上記をアンケートに反映する等実施したい

レジデンシャル・カレッジが地方にできた場合に住む上での現実的な課題も今後抽出(費用、期間、校則 etc)

# 実証事業期間 スケジュール



# 募集、広報：webで主に実施し、関係自治体等に連絡

## Website

【地域在住高校生対象】SHIMOKITA COLLEGE モニターステイの募集を開始しました！

地域在住高校生を対象とした、約2週間のSHIMOKITA COLLEGE 短期モニターステイの募集を開始しました。

期間は①12/24～1/9 ②1/14～1/29のいずれかとなります。応募フォームよりご応募ください！



この度、株式会社エイチラボは経済産業省「未来の教室」実証事業に採択されました。

<https://www.learning-innovation.go.jp/news/verify-notice-e-2022-result/>

2020年12月より取り組んでいる、高校生・大学生・社会人が共同生活を通じて学び合う「レジデンシャル・カレッジ」の首都圏以外での展開可能性を探る、サードプレイス実証実験を行います。

つきましては、下記の期間、カレッジに無償でモニターとして居住する**1都3県以外に在住している学生**を若干名募集します。

**滞在費・交通費は「未来の教室」実証事業のため、事業者が負担いたします。**

※滞在中の食費のみ実費がかかるのでご注意ください。

## SNS



＼地域在住高校生限定／  
2週間滞在 モニターステイ 募集開始！

対象：地域在住の高校生

※「地域」とは、原則、一都三県（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）を除いた、日本国内とします。  
一部例外あり（島しょ地域等）

募集人数：若干名(4～8名程度を想定)

費用：居住費無料・自宅からの往復交通費支給  
(別途食費・生活費は自己負担となります)

締め切り：11月27日(日)

申し込みは専用フォームよりお願いいたします。

## その他

その他、HLABの関連ある自治体等を中心に、教育委員会や教員の先生方にご紹介

## (参考) ワークショップの内容

今回のワークショップは以下の設計で行う。

### 目的：地方におけるサードプレイスを考えよう！

- ①地方の高校生を取り巻く課題を明らかにする
- ②地方に新たなサードプレイスをつくる時、ほしい機能や要件を整理する
- ③いかに多くの人に機会を届けるられるか、高校生の視点で考え、提案する

### 全体の流れ

WS 1（18日）：取り巻く課題を明らかにする！

WS 2（20日）：地方におけるサードプレイスに必要な機能は？そしてそれをより多くの人にアクセス可能にするには？

チーム別ワーク：上記アイデアをブラッシュアップ、最終発表準備

WS 1：ポストイットを使用したワーク、課題の整理

WS 2：WS 1の課題をベースに、地方におけるサードプレイスに必要な機能をアイデア出し

## モニターステイ アンケート結果①（定性コメント集）

### 一番楽しかったことを教えてください。

時間を忘れて何時間も話すことができたり、話をしながら買い物に行ったりしたこと

会いたい人と繋がったとき

最終発表会のあと、発表を聞いてくれた人達とお話したこと。

**コーヒーチャット（誰とでも）。自分の考えていることが相手と話している間に言語化されていってクリアになっていく感じがはじめてで楽しかったです。また、そのなかの表現や考えを肯定されたり、相手に理解してもらうことがカレッジ以外ではない経験だったので、安心して話せたし、自信になりました。**

コーヒーチャット、フェアウェルディナー

1/28の夜から1/29の朝まで起きて語り明かしたこと

対話、コーヒーチャット

### モニターステイで得たことは何ですか。

人と話したり、目標を応援したり、自分について話したり、日々の生活では忘れてしまいそうな出来事の大切さや、有難さをもう一度確認できたこと

人と関わることの大切さ、自分への可能性"

自分では気づかないうちに、これまでの人生ですずっと大切にしてきたものが何か分かりました。

**"自分の感情を客観視しながら組織に属したり人と関わること。私は今まで「学校が嫌だ」という感情だけで学校を変えたり、一時の感情で組織から抜けたりすることがありました。今考えると、あのときは自分のことを客観視できていなかったと感じます。**

カレッジの住民に「あなたにとってSHIMOKITA COLLEGEは？」という問いを投げかけたところ、人によってカレッジに様々な価値を期待し、創造していることがわかりました。また、そのなかで、「一つの組織（カレッジ）にすべてを求めないこと」「カレッジのいいところ悪いところを認識しながら住むこと」を学びました。この姿勢は私に足りないものだったと思うので、これから組織に属したり、物事への関わり方考えたりするときに活かしたいと思います。"

自分の意見が周りと違って違和感を持った時、それは持ち続けて良いこと。すると考えが深まること。

類は友を呼ぶ、好きの反対は無関心、「本物」はシンプルかつ小手先のテクニックでは通用しない、善悪・白黒だけでは人を判断できない、といううまく生きていくコツ。SNSの世界で理想的で素敵な生活を載せる（魅せる）ことをやめると一つ一つの瞬間を心から大切にできるようになり人生の充実感と幸福度が劇的に上がったという気付き。

人について、自分について、言葉について、感情について、質問について考える機会

過去にあった情熱（を取り戻したこと）

## モニターステイ アンケート結果② (定性コメント集)

モニターステイを通して、今後につなげていきたいことはありますか

人との出会いを大切にすることや自分の目標に向かって成長する中でも、心の余白を作れるようにしていきたい  
世界を幸せにするための教育を作る

すべてのことに愛を持って取り組んでいきたいと思います。どんな状況や環境でも前向きに、楽しもうという気持ちを大切に人や物事と向き合っていきたいです。

**"「地元にあるもの」「地元で選択していること」を見つめ直したいと思いました。2週間の間で、地方と都市を比べたり、選択肢の不平等について考えたりしました。すると一概に地方だけはないものや選択できないものがあるということもないと感じることが多くありました。地方での暮らしを見つめ直し、どこに選択があるのかを考えたいと思いました。**

また、そのときに考えるポイントとして「本人の選択した感」が大事なのではないかという仮説がこの2週間で得られたのでそれも一緒に考えていきたいと思います。"

何か起こしたいアクションができたので、それに挑戦していくこと。

本当の意味で頭のいい賢い人になりたいと強く思うようになりました。私はまだまだ全然中身が伴っていない人間だと思います。教養が欠けているのだと思います。カレッジで尊敬する方々が仰っていたように、本を読むこと、を大学入学前のこの期間で確実に習慣化し少しでも内面を成長させたいです。

**学ぶことは楽しいということを実感出来る時間が多かったため、その時間を思い出して周りに人が居なくても、自ら学びの時間を作り出していこうと思う。**

大学に行くまでの期間中に自分磨きをすること

モニターステイへの課題点、気になったこと等ありますか。

期間を伸ばしたり短くしたりするとどうなるのか気になったし、人数を変えるとどう変化するのかは気になった

悩みを気軽に相談できなかったところ

特になし。

カレッジの入居者のなかでいつも共有部にいる人が大体一緒だったり、ご飯を食べる人も一緒だったりして、いろんな人と話せたという感じが少なかったと感じました。

未来生の行事とハウスのイベントが被ってたこと。

ありません。

私からするとカレッジは生活する場所ではなくそこでしか得られないものを得に行く場所だったけど、居住者の中には生活する場所として捉えている人もいたため(悪い事だとは思ってません！)、気持ちのギャップを感じたこと。

正直最初にもう少しモニターステイに関する情報があると良かったかなと思います。